

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立弘済中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

【 現状と課題 】

本校の児童・生徒は、児童養護施設・児童心理治療施設に入所する児童・生徒であり、生活背景や環境が複雑で虐待・ネグレクトなどの経験を抱え、幼少時より十分な大人からの愛情や家庭教育を受けてきておらず、基本的な生活習慣が十分に身につけていない状況である。よって、ほとんどの児童・生徒は基礎学力に不安があり、自己肯定感や達成感を持たずに日々を過ごしてきた児童・生徒である。

園(施設)で生活する中で衣食住が満たされ、精神的に本来の落ち着きを取り戻した児童・生徒に、基礎学力の定着と基本的な生活習慣や社会性を身につけさせるとともに、豊かな心の育成を核とした生きる力をはぐくむ教育の推進を図ることが、本校の大きな目標であると考えている。

そのためには、児童・生徒と教員との信頼関係が最も重要であり、学ぶ楽しさの実践や、綿密な児童・生徒理解によるきめ細かな生活指導など、教員との心の通った学校生活の場を作り出すことが大切であるといえる。

【安心・安全な教育の推進】

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「マナーへの意識」「規範意識」「思いやりの心」「奉仕の心」「感謝の心」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年80%以上にする。

(1 安全・安心な教育環境の実現 1-1 問題行動への対応)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

(2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

(2 豊かな心の育成 2-3 人権を尊重する教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

(2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)**【未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年80%以上にする。

(4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年90%以上にする。

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、食事の大切さに関心を持ち、礼儀正しい食べ方ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)**(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)**

【学びを支える教育環境の充実】

○弘済のぞみ園・みらい学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、園行事に対する「協力・連携」の項目や、生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答をする園職員の割合を80%以上にする。

（9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進）

2 中期目標の達成に向けた中学校の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。100%（中3）

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。不登校0

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。

（2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進）

○「認知機能強化トレーニング（コグトレ）」を継続して実施し、生徒が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、高校中退率を前年度より減少させ、卒業後の社会生活への適応がより良くできるようにする。

（2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進）

○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

- ・「気持ちの良いあいさつができていますか」（マナーへの意識）95.7%
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」（豊かな心）60.9%
- ・「相手の気持ちを考えた言動ができていますか」（思いやりの心）91.3%
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（奉仕の心）87%
- ・「感謝の気持ちをありがたい言葉で伝えられていますか」（感謝の心）91.3%
- ・「学校生活ガイドにそった学校生活を送っていますか」（道徳心・社会性・規範意識）100%

（2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。82.6%

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント向上させる。

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 10%以上にする。10%以上

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。87%

○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。87%
（4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進）

○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。87%
（5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進）

○年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。87%
（5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進）

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80%以上にする。
[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]91.9%

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。100%

○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を 95%以上にする。100%
（6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 6-1 ICTを活用した教育の推進）

○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の 4 項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を 80%以上にする。「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの教育（指導）を行っている」の項目で、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。100%
（9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進）

3 本年度の自己評価結果の総括（中学校）

【安全・安心な教育の推進】

○ここ数年継続して実施している「つながる力向上プログラム」を年間通じて実践することで、生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力が高まり、問題行動件数が年々減少し、対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物損壊・いじめ はすべて 0 件であった。

○一昨年度よりコグトレオンラインを導入して、より効果的に実践できるようになり、詳細な分析が可能になった。来年度はその分析を生かして、より効果的な実践を行う予定である。

○昨年度は、「豊かな心の育成」の全項目で肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする目標を掲げたが、1つの項目（「豊かな心」60.9%）で達成できなかった。今年度は、その他すべての項目において80%を超え、（道徳心・社会性・規範意識）の数値が100%を達成した。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査の「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目では、肯定的な回答をする生徒の割合が87%となり、昨年より、13ポイント減ったが、80%という目標は達成できたが、次年度の課題とする。

○年度末の校内調査の「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合が昨年度の92.3%に対して、今年度は87%と、2ポイント上がった。

○年度末の校内調査の「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合が92.3%であったが、今年度87%となり、目標を達成することができなかった。次年度の課題とする。

【学びを支える教育環境の充実】

○昨年度に引き続き毎日のきめ細かな生徒観察や教員間の情報共有、施設職員との情報交換により、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率は100%であった。目標を達成することができた。

○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施した。肯定的な回答する園職員の割合は、園行事に対する「協力・連携」の項目で100%（88.1%）、児童・生徒に対する「道徳教育」の項目で100%（80.5%）、「学力の向上」の項目で100%（88.1%）、「運動・体力の保持増進」の項目で100%（87.8%）であった。肯定的な回答が全ての項目で目標数値を上回っている。今後も学校と園職員との連携を継続していく必要がある。

（様式2）

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。100% (中3)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。不登校0</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。</p> <p style="text-align: center;">(2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)</p> <p>○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちの良いあいさつができていますか」(マナーへの意識) 95.7% ・「将来の夢や目標をもっていますか」(豊かな心) 60.9% ・「相手の気持ちを考えた言動ができていますか」(思いやりの心) 91.3% ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(奉仕の心) 87% ・「感謝の気持ちをありがたいという言葉で伝えられていますか」(感謝の心) 91.3% ・「学校生活ガイドにそった学校生活を送っていますか」(道徳心・社会性・規範意識) 100% <p style="text-align: center;">(2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進)</p> <p>○「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を継続して実施し、生徒が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、高校中退率を前年度より減少させ、卒業後の社会生活への適応がより良くできるようにする。</p> <p style="text-align: center;">(2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p> <p>○「ポジティブ行動支援(PBS)」に関する行内研修を複数回実施し、あらゆる活動にPBS取り入れることによって、自尊感情を高め、積極的に行動できる生徒を育てる。</p> <p style="text-align: center;">(2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【2-1 道徳教育の推進】 つながる力向上 PJ</p> <p>生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高めるため、「つながる力向上プログラム」を計画し実践する。プログラムの実施にあたり、教員の指導力向上をねらいとして研修会を開催し、その後に授業実践を行う。</p> <p>指標 生活実態アンケートの「思いやりの心」「感謝の心」に関する項目で、肯定的な回答を80%以上にする。(R7 「思いやりの心」91.3%、「感謝の心」91.3%)</p>	A
<p>取組内容②【2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進】 生活指導部</p> <p>道徳の授業や日常的な生活指導を通して、あいさつやルールを守る等道徳心や社会性、規範意識の育成を意識して教育活動を進める。</p> <p>指標 生活実態アンケートの「マナーへの意識」「奉仕の心」「道徳心・社会性・規範意識」に関する項目で肯定的な回答を80%以上にする。(R7「マナーへの意識」95.7%、「奉仕の心」87%、「道徳心・社会性・規範意識」100%)</p>	B
<p>取組内容③【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】 学力向上 PJ</p> <p>生徒が自分の特性を知り、克服するための取り組みとして、「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を行う。</p> <p>指標 「機能強化トレーニング」に加え「作業トレーニング」「対人スキルトレーニング」を取り入れ、計画的に実施する。</p>	B
<p>取組内容④【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】 生活指導部</p> <p>生徒が自尊感情を高める取り組みとして、外部講師を招いた研修など導入に向けた研修を計画的に年3回行い、ポジティブ行動支援を各活動に取り入れる。</p> <p>指標 ポジティブ行動支援について、独自アンケートに基づき、生徒の行動の変容を成果として年度末に確認を行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① (つながる力向上 PJ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の生活実態アンケートでは、指標としている「思いやりの心」91.3%、「感謝の心」91.3%の肯定的回答があった。 ・ 各プログラムの実践では、積極的な意見交換が行われていた。 ・ 運動会では、生徒同士が支えあい、助け合い、学びあう姿をたくさん見ることができた。また、小学生との交流場面でも、「よいお手本」となり、小学生を導く場面が多く見られた。 ・ 学習発表会では、個々の役割に対する責任感であったり、主となる生徒のサポートする言動が多くみられ、生徒の主体的に動きにより、素晴らしい作品が出来上がった。 ・ 年度当初に専門的な知識を有する講師を外部から招き、教員の指導力向上をねらいとした研修会を1学期に2回、2学期に1回、3学期に1回実施した。 ・ 年度当初に立てた年間指導計画は、概ね計画通りに進み、指標となる項目のすべてが目標数値を上回った。 <p>取組内容② (生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の授業や朝会での講話を通して、あいさつやルールを守ることへの啓発を行った。 ・ 生徒会と児童会で登校時のあいさつ運動を実施した。 ・ 職員連絡会等で授業規律を確立させるよう徹底した。

- ・「生活ガイド」を基本とした生徒指導を行い、普段から生徒への声掛けを大切にしている。
- ・生徒議会の活動を通して、生徒たちが主体となり生活ガイドを修正し、生徒たちがお互いに声を掛け合って注意しあうことで規範意識や責任感を高めている。
- ・学期末の「生活実態アンケート」では、「マナーへの意識」で95.7%、「奉仕の心」で87%、「道徳心・社会性・規範意識」で100%の肯定的な回答があった。

取組内容③（学力向上PJ）

- ・生徒各自の特性を克服する取り組みの一環とし「認知機能強化トレーニング」（コグトレ）を、年間計画を立てて実施している。毎週火曜日・金曜日の朝学活の時間を使って、「認知機能強化トレーニング」オンラインを実施。今後スクリーニングテストを行い、結果分析をしていく予定である。また、2年生ではコグトレミッションを実施した。
- ・総合の時間を利用して、「認知作業トレーニング」を各学期に行った。
- ・3学期から各学年の弱い部分をカバーするため、毎週金曜日に、「認知機能強化トレーニング」をする学年と、「認知ソーシャルトレーニング」をする学年とに取り組み内容をわけて行っている。

取組内容④（生活指導部）

- ・終学活で「今日できた行動」を生徒自身に振り返らせ学級全体で共有させた。
- ・生徒が望ましい行動をとった瞬間に、即時・具体的・短く褒めた。
- ・良い行動ができた生徒を集会等で共通して褒め・認める文化をつくるようにした。

次年度への改善点

取組内容①（つながる力向上PJ）

- ・年度末の生活実態アンケートでは、指標としている「思いやりの心」、「感謝の心」の肯定的回答がともに91.3であったが、「そう思う」「だいたいそう思う」の数値を見てみると、「思いやりの心」では、「そう思う」39.1%、「だいたいそう思う」52.2%、「感謝の心」では、「そう思う」52.2%、「だいたいそう思う」39.1%となっている。次年度に向けて、「思いやりの心」での「そう思う」の割合が増加するような取り組みを考えていきたい。

取組内容②

- ・「あいさつやルールを守る」ことへの啓発を、道徳の授業や朝会・集会での講話を通して行うとともに教育活動全般を通して行っていく。また、並行して生徒会であいさつ週間を作るなどの活動でより一層生徒会活動を活発にしたい。
- ・「生活実態アンケート」のすべての項目についてはこのまま継続で肯定的な回答80%以上を維持し、すべての項目で100%に近づくように指導を続ける。

取組内容③

- ・継続的に認知ソーシャルトレーニング・認知機能強化トレーニング・認知作業トレーニングを行う。
- ・コグトレミッションから結果分析を行う。

取組内容④（生活指導部）

- ・外部講師を招き研修等を行う。
- ・全学年で終学活の際に一日の良い行動について発表し合う。
- ・継続して生徒が望ましい行動をとった瞬間に、即時・具体的・短く褒めるようにしていく。
- ・継続して良い行動ができた生徒を集会等で共通して褒め・認める文化をつくるようにしていく。
- ・生徒の意見を今後の改善に生かすための独自アンケートを検討する。

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。82.6%</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を10%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。87%</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。87% （4 誰一人取り残さない学力の向上 87% 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。87% （5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進）</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。87% （5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 学力向上PJ 生徒の学習理解度に応じた指導内容を作成し、基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を工夫し、実践する。</p>	B
<p>指標 年度末の生活実態アンケートにおいて、「興味と関心」、「学習意欲」、「学習習慣」、「授業理解」等の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。(R7 82.6%)</p>	

取組内容②【4-1、言語活動・理数教育の充実】 学力向上PJ 言語活動の充実を柱に、新聞の活用を各教科で取り入れ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。	B
指標 各教科や取組で新聞を活用した授業の実践と校内研修で実践事例の交流を行う。	
取組内容③【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 保健体育科 自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事を積極的に活用する。	B
指標 年度末の生活実態アンケートで、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味・関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 (R7 91.3%)	
取組内容④【5-2 健康教育・食育の推進】 健康教育部 感染症を含む病気やケガの予防対策を積極的に実施する。そして、病気やケガの実態調査と分析に基づく適切な指導を行う。また、「保健だより」や保健に関する掲示物等を活用し、病気やケガの防止、基本的な生活習慣に対する意識の向上など、啓発活動等を積極的に実施する。	A
指標 年度末の生活実態アンケートの「手洗い」「うがい」「病気やけがの予防」「食育」など基本的な生活習慣の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 (R7 94.2%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①（学力向上PJ） <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやプリント教材を工夫して作成し、基本的事項の定着や演習問題・グループワークの実践を行った。 ・ICTを活用し、協同的な学習・対話的な学びの実践等、生徒が意欲的に学習できる授業を実践した。 ・1学期末の生活実態アンケートにおいて、「授業理解」、「学習意欲」、「興味と関心」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上であったが、年度末の生活実態アンケートでは、「学習意欲」、「興味と関心」の項目が80%以上で、「授業理解」、「学習習慣」の項目は80%に満たなかった。次年度も引き続き宿題・連絡帳ファイルを活用し、園での自主的な学習習慣を定着できるように指導していくほか、教材研究に取り組み、生徒たちの授業理解を図っていく必要がある。 ・新任研や2年次研、OJTによる研究授業を、年に数回実施した。
取組内容②（学力向上PJ） <ul style="list-style-type: none"> ・各学級でデータベースの新聞教材を用いた取り組みを、朝学活の時間に、週に1回行った。 ・1学期末の生活実態アンケートにおいて、「新聞を活用した授業」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合は64%であったが、年度末の生活実態アンケートでは、肯定的な回答をする生徒の割合が56.6%と下がってしまった。各教科において、学習内容と関連した記事がなかなか見つからず、継続して新聞を活用した授業実践が行えなかったことが原因の1つとして挙げられる。 ・新聞に対する拒絶が強い生徒もいるため、新聞に触れる機会を増やし、少しずつ慣らしていくことが必要だと考えられる。
取組内容③（保健体育科） <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みに道具の貸し出しを行い、多くの生徒が積極的にボール運動などのスポーツを楽しんでいる姿が見られた。 ・体育の授業では、「体づくり運動」を毎時間取り入れており、体力向上に努めた。 ・運動会では、入場行進・ラジオ体操や団体演技のダンスにおいて、意欲的に取り組む姿勢が見られた。

- ・12月に生徒中心で体育的行事を行えた。
- ・生活実態アンケート「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか。」では、第1回は88%、第2回は87%の肯定的回答を得た。

取組内容④

- ・毎日出欠状況を確認し、体調不良生徒の調査を実施している。所見等がみられた生徒に関しては、適宜園と連携を取り、管理職に報告し対応している。
- ・自分の健康に興味を持つように、保健だよりを月に1回以上発行したり、ポスターや掲示物をタイムリーに掲示したりするように努めている。
- ・1学期の生活実態アンケートでは、「手洗い」の項目では95.7%、「病気やけがの予防」の項目では87%、「食育」の項目では、100%の肯定的な回答があった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ICTを活用し、協同的な学習・対話的な学びの実践等、生徒が意欲的に学習できる授業や、わかる授業を行うための教材研究を、各教科で引き続き実施する。
- ・宿題・連絡帳ファイルを継続して活用し、自主的に学習する時間の増加や習慣化に向けた指導を行っていく。
- ・年に数回、研究授業を引き続き実施する。

取組内容②

- ・各教科において行った、新聞を活用した授業実践を共有し、他教科での実践事例を参考に授業で積極的に取り入れる。
- ・各学年、各教科で、新聞を用いた取組を引き続き実践し、生徒が新聞に触れる機会を増やしていく。

取組内容③

- ・第2回では「そう思わない」と回答をする生徒がいた。今後も継続して、運動に苦手意識のある生徒に対して、体育・スポーツを行うことの大切さや楽しさを、引き続き伝えていく。

取組内容④

- ・引き続き生徒の健康観察を行い、異常の早期発見に努める。
- ・今年度は学校での活動が起因の通院が一件あった。危険な場所・遊び方で遊んでいる生徒がいた際には、教員全体で指導していき、怪我の発生を未然に防止していく。

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] 91.9%</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を95%以上にする。 100%</p> <p style="text-align: center;">(6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進 6-1 ICTを活用した教育の推進)</p> <p>○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を80%以上にする。「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの教育(指導)を行っている」の項目で、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 100%</p> <p style="text-align: center;">(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】 生活指導部</p> <p>「心の天気」や「相談連絡機能」などで生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、生徒理解を深める手段とするとともに、「いじめ・不登校」などの未然防止・早期発見など迅速な対応に努める。</p> <p>指標 「心の天気」を日々確認することにより、気になる生徒に積極的に声掛けをする機会を設ける。</p>	B
<p>取組内容②【9-1 教育コミュニティづくりの推進】 学校代表</p> <p>小、中学部の代表教員が中心となり、園の行事に積極的に協力する体制づくりに努める。生徒の前日の様子や引継ぎ事項を確認するために、毎朝園の各フロアに出向く。また、問題行動等の指導に関しては、事前・事後を含めて生徒指導主事を中心に、園との連携を密に行う。さらに、「園との連絡会」を定期的に行い、連携がさらにスムーズに行えるよう交流を深める。</p> <p>指標 年度末に園職員を対象とした学校教育に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力」、「連携」等の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。また「園との連携」の項目で、肯定的な回答を80%以上にする。さらに、管理職を含めた「園との連絡会」を少なくとも月1回以上行う。 (R7 100%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①（生活指導部）

- ・毎日朝・昼・放課後の「職員連絡会」で生徒情報が共有されており、組織的に対応することができている。また、それが迅速な問題解決につながったと言える。
- ・毎朝朝学活の時間に「こころの天気」を行い生徒が相談し易い環境づくりに心がけている。また、気になる生徒には各担任から声掛けするようにしている。
- ・3学期の「いじめアンケート」でいじめ無しという結果になった。

取組内容②（学校代表）

- ・毎朝園に出向き、生徒の園での生活の様子などの聞きとり、職員朝会で共有できた。生徒を迎えるにあたり効果的であった。
- ・問題行動や、生徒の気になる言動や変化については、迅速な報告を行い、再発防止や「見守り」に努めた。
- ・事象によっては、管理職や担当教諭と園の主任や園職員とで話し合いの場の設定し、指導方針や今後の展望などを含めた協議を必要に応じて行った。
- ・「園との連絡会」を、月1回のペースで実施したことにより、生徒の細やかな情報の共有や課題確認ができ、日々の指導に生かすことができた。また、各フロアとの連絡会だけでなく、各学期の初めには全フロアのリーダーに参加してもらって全体連絡会を実施し、園および学校での全体的な様子についての情報交換を行うことで、互いの現状について全体的な様子を把握することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・授業規律の確立、規範意識の向上、問題行動の減少など、「学校の落ち着き」が出てきている。現状を維持、さらに向上させていくためには、生徒の特性等を十分に理解しながら指導にあたること、全教職員で統一した指導を行っていくことが大切となる。このため、研修会を開催して、毎年確認するとともに、個人や集団としての指導力向上をさらに目指す。また、小中合同生指連絡会を活用して小学校中学校で連携の取れた生活指導をする。また、今年度授業時間数の問題から、毎週金曜日に行っていた「一週間の振り返り」の時間を確保することができていない。「一週間の振り返り」の代わりに「いじめアンケート」や「心の天気」などで日々の生徒の心情把握を行っているが、「一週間の振り返り」で自分の気持ちを文字に起こすことの重要性も考慮し今後どのように設定するか検討する。

取組内容②

- ・「学校生活ガイド」については毎年見直しを行い、必要に応じて改訂したうえで、年度初めに説明と協力をお願いを行う。
- ・問題行動や、生徒の気になる言動や変化については、迅速な報告を引き続き行い、指導への理解と協力を求めている。
- ・園での指導についても報告をもらい、足並みを揃えて生徒指導を進めていく必要がある。
- ・園と学校、それぞれの立場を理解し、尊重しながら、その時々で最善の園との連携・協力体制を構築していく必要がある。